

磐城時報

五十町屋紺町平縣島福
成弘田岡行發衆師編
社報時城磐人刷印
社報時城磐上同所行發

新年

年新賀謹

昭和六年を迎ふ

磐城時報社同人

曆は革まつた。深刻なる不況の波に漂はされながらも、一年の瀬戸を経過した、茲に昭和六年を迎ふる事となつた吾人は此の新年の劈頭に立ち、恭々しく、聖壽の無疆を祈り、謹みて讀者諸君の前途を祝福する。

而して是れと同時に、吾人は感慨の禁ずる能はざるものがある、幸に吾人の懷抱を披瀝するの餘裕を與へられんことを希ふのである。

昭和六年を迎へたる劈頭に於て、吾人は過ぎし大正六年の如何なる年にてありしかを、端なく想起するを禁じ得ない。大正六年と言へば、世界大戦の最中にて、社會は到るところはに活氣漲り、各方面の景氣は、到底目下の不況とは比較すべからざるものがあつた。顧みて漫ろに當時の盛況を羨想するにあらざるも、而かも目下の深刻なる不況を片時速かに脱却せんことを望まねばならぬ。

井上藏相は曩に其の意見を公けにされたる中に左の如く言はれた。

今日は世界の隅々まで不景氣の爲めに苦まない所はないのであります、寧ろ斯の如き事態に遭遇したならば、此時局をよく理解して各々の立場に於て大いに努力を惜まず國民的に一致協力して此難間に處するに云ふ事が、最も肝要なることと考へるのであります、過去の經驗に於ても、好景氣が長く續くものでないと同じく、不景氣と云ふものも決してさう長く續くものではないのであります、日本の近い經驗を述べましても景氣と不景氣は常に循環して吾々の前に出て來て居るのであります、(中略)景氣不景氣は種々なる原因から起りますが、常に循環しそして好景氣時代に最もよい收獲を得るものは不景氣時代に最もよく整理をし用意をしたものでありますから、私は常に不當な樂觀もせず不當な悲觀もせず、自己の爲すべき奮闘努力を續けて行く事が、斯の如き時期に際しての國民の信念でなければならぬと考へる次第であります云々。然り是れ當然の所論として一應首肯すべき所なるも、而かも今の場合、之れを機運の循環とあきらめて不況を傍觀坐規するを許さざるは勿論、吾人は此の年序に一線を劃せるを機として一層大々の努力の下に景氣恢復の策に向つて奮進しなければならぬと信ずる。然して其策や須らく之を爲政治家、經綸家の銳意實行に俟たざる可からざるを痛感切に感ずるのである。偶ま年頭に際して聊か所感を記して以て新年の辭となす。

昭和六年一月元旦



ひつじ歳生れの人

平町長伏見彦衛氏

大平市建設のために 寢食を忘れて奔走

平町長、伏見彦衛氏は明治四年生れ。伊坂町長時代の平町は七月十五日生れ、本年で還暦の實に平穩であつた、平町會も憲政を迎へたわけである、相馬郡政會、現在民政黨系の議員は眞野村の舊家に生れ幼にして頭酒井秀治郎、遠藤林松兩氏のみ眞野村、二十歳にして小學校教で殆んど全員一致町治に對して員檢定試験に合格し教鞭を執るは異議を挿むものなく萬事すらすら、その後眞野村役場書記、大沼各郡書記から石通選挙法案が實施されるに至り、信夫、大沼各郡書記から石通選挙法案が實施されるに至り、城郡上席書記に榮轉した。その同年五月改選され、頃から手腕大いに認められ當時の町會議員の顔觸の平町長伊坂正氏は上席郡書記は從來と全く一記であつた氏に懇請し無理に平變した。



伏見氏、は町長としての手腕に於て縣下町村長中右に出づる者なく人格も亦清潔潔白、私

町助役に轉せしめた事情は、而して今日町民の記憶に尙ほ存するでは町民の知る如く、見氏は實によく平町のために働野崎系、猪狩系、いた。粉骨碎身といふ字句は實花澤系と五派に分

なつて来た、町民は最近の平町就任以後町治愈々あがり上水道工事の完成、小學校の増改築、第三小學校竣工、上水道擴張工事、新設道路の布設等平町を前提としての事業一日と完成しつゝ、あるのは全く伏見町長の手腕によるもので町民一般はその誠意に對し満腔の謝意を表すべきであらうと思ふ。氏は、町長の位置にある外、全國町村長會政務調査員、福島縣町村長會相談役、石城郡町村長會長その他各方面に於ける重要な地位にあり、地方自治の功勞者である。今や功成り名遂げ昭和六年還暦を迎ふるに當り同族の前途を祝福するに共に仙臺市片倉製糸工場會計係を勤務してゐる令息文彦氏及び同氏一族の健勝繁榮を望んで止まぬ。

人格の人 正義の人 鶴屋商店猪狩庄平氏

平町實業界の大立物、四丁目鶴屋商店主人猪狩庄平氏は明治十一年生れ本年四十九歳羊歳の生曾て他人に惡感を抱かせた事がない。従つて今日まで凡ゆる方造業十郎氏の令弟として生る面の名譽職をすゝめられてゐた氏は人格圓滿、商業方面に於けられども斷然として辭退し、嘗識見抱負の卓越した点に於て一度も之を引受けた事がなかつたが、往年所得稅調査委員選の識見抱負の卓越した点に於て一度も之を引受けた事がなかつたが、往年所得稅調査委員選の際に際して多數關係者から無理

に推されて止むなく就任しその後平町會議員選舉に當り四丁目區民が代表者人選に窮した結果固辭してゐた猪狩氏を無理に擔いで而も高志を以て當選せしめた。全民衆を味方としたいご念願してゐた猪狩氏にまつて町會議員となつた事は寧ろ迷惑な事であつたらうが、一度び町會議員となつた氏は町治に關して是非々々主義、飽くまで正義をモットーとして勇往邁進してゐる点は温和な猪狩氏の日常を知る人々が感服してゐる事である、猪狩氏が町議として如何に正義を高唱してゐるかに對して一例をあげて見やう。過般平町會に於て平水道工事に關する所謂一札問題に關し町長彈劾派の人々恒例に依り五日まで休刊仕候間御了承願上候

- 謹賀新年
- 平町 旅館組合
 - 磐城建物株式會社
 - 平運 運輸株式會社
 - 平町 公私立校長懇和會
 - 湯本 信用無盡株式會社
 - 石城郡 第一區小學校校長會
 - 石城郡 第二區小學校校長會
 - 石城郡 第三區小學校校長會
 - 石城郡 第四區小學校校長會
 - 平町 西洋料理業組合
 - 平町 砂糖商同業組合
 - 平町 料理屋組合
 - 江名 漁業組合
 - 小名濱 町大敷網事務所
 - 豐間 大敷網事務所
 - 小名濱 水産株式會社
 - 石城郡 町村長
 - 平藝 妓屋組合
 - 平町 會議員一同
 - 平三 業保健組合

ひつじ歳生れの人

株界の恩人駒場四郎氏

地方の株價を左右する 實業界の大立物

平町字田町駒場株式店主駒場四郎氏は明治十六年十二月一日、石で以ては存在益々重要視され、城地方に於けるひつじ歳生れの至つた。今日では石城地人々のうちで成功家として指を方の人々が地方並に中央株を賣すべき人である。生家は材木買せんとする際は殆んど全部駒商であるが、幼少から頭腦明晰敏場氏の手を経るか、若くはその感で家業に従事してゐる頃から意見を聴いた後にするやうな傾早くも財界の將來を觀破し、近き嚮になつて來た程信用を集める財界の大變動が襲來すべきを覺つて平町に來りその頃平町には惡辣極まる詐欺的株屋が跋扈してゐたので、之等の驅逐と株式賣買業界の革新を叫んで大正七年平町に株式店を開業した。眞面目で正直な氏の氣性は忽ちにして地方民に容れられ、而も株式賣買に於て親切丁寧をモットーとしその問題も不純の行動に至つたのも無理はない、そのををとなかつたので日ならずし結果地方株の價格は駒場氏の言で信用を一身に集め遂に今日の動如何によつて或る程度の變化成功を築くに至つた。駒場氏開業を齎らすことへ言はれてゐるの業以前の石城地方の株屋が非常は收て過言ではない。即ち氏は不評判で株屋と云へば容易にの正義的努力は地方経済界の大信を措かなかつた程狡猾なもの立物として押しも押されぬと思はれてゐたのが、今日では駒場四郎を築き上げた。氏は財株屋はなくてはならぬもの、事ある毎に於て透視的の活眼を有してゐる毎に民衆の便宜を計つてくれる反面に於て公共心に富み且るものと重賞がられ信用されるつ又無上の同情心を持つてゐるやうになつたのは全く駒場四郎事ある毎に公共事業に莫大の寄氏が開業し利益を超越した態度附をおしまない。過般平町白銀で賣買業に従事した結果による町を通る際、親子連れの哀れなもの、この点に於て實に氏の人を自撃し歸宅後同情心に迫ら功績偉大なものがある。殊に過れて堪えられずその夜直ちに平般財界變動に際し平町警城銀行警察署に出頭しあのやうな哀れ



實業界稀に見る 徳美の士である 而も本年四十九 才前途益々遠達 である、幸ひに 自重の上地方の ため活躍されん 事を望む次第で である。

未年生れの人々

- 平新町猪狩彌作(六一)南町大谷要次郎(四九)紺屋町織田末松(六一)二丁目伊藤房治(四九)三丁目小銀治妻吉(六一)四丁目百澤才八郎(四九)材木町乃木伊平(四九)十五丁目山田文一(四九)中野勇吉(六一)南町大谷傳三郎(四九)同大島健三(四九)城山館野發三郎(四九)田町古川四郎(四九)田町大久保貞吉(四九)藤匠町堀江正藏(四九)田町合津重世(四九)二丁目丹野榮郎(六一)新町吉田直之助(六一)

鹿島町(電話三三番)
相馬郡真野村江垂
場主 宮西彌平
主任 宮西 薫
電話七番
中村 町
四倉支局

木村醫院 大浦村上仁井田 倉醫師齒科醫組合 四倉小學校 校長 菊地正一 青木公丸 大野村青年團長 鈴木佐四郎 四倉驛前 警陽館製糸場 常盤銀行出張所 電話一二二番 松本健 味噌、醬油醸造元 鱗合屋名會社 電話一〇八番 四倉町役場 助役 菅波千之助 收入役 遠藤安次郎 東部電力株式會社 四倉營業所員 柳田久太郎 高木忠三 渡邊久三 波邊今朝雄 出羽義美	幹部一同 四倉水難救濟會 大浦信用組合 大野村 中野幸平 四倉驛長 二階堂寬 四倉町 大倉裁縫女學校 校長 早川ヨシ	酸素熔接所 木村健助 大平館 料理館 四倉新町 電話一八 鈴木シマ 産婆代議員 四倉町仲町 鈴木長治 大浦村役場 寺岡章商店 雜貨商 四倉町本町 吉田油槽所 四倉町劇場 電話四十八番 海盛座 旅館 四倉本町 電話十九番 柏屋 四倉藝妓屋組合 四倉西洋料理業組合 長谷川材木店 四倉町仲町 長谷川長八 四倉産婆組合長 中野トク 代議員 四倉仲町 小林洋品店 四倉仲町 紙屋吳服店 四倉仲町 高木才モチヤ商店	鈴木克哉 四倉仲町 波多野 瀬戸物 御銘茶 四倉本町 四倉製菓組合 漁業家 菅波末吉 四倉郵便局 鈴木賢二 大野村 吉田保之助 大野村 鈴木牛乳舎 四倉町原田 四倉料理屋健組合 新妻藥店 四倉町 電話九番 大谷伊佐吉 大野村役場 會田好松 助役 渡邊熊藏商店 四倉本町 常磐工業所 コンクリート製造 四倉本町 山野邊拾次郎 佐木國治 銅業屋 四倉本町 四倉藥局 四倉仲町 藥劑士 大田政市	大塚消防 組頭 木村庄助 藥品雜貨卸 四倉新町 深谷藥舖 電話二八番 佐藤 寫眞館 四倉仲町 電話三三番 西山新重郎 大野村 藤屋 大野村玉山 旅館 四倉合同運送 四倉驛前 株式會社 四倉鐵工所 四倉驛前 龍山恵一 海氣館 四倉町 久之濱北町 龜屋旅館 東部電力株式會社 四倉變電所 所員一同 平屋吳服店 四倉町本町 電話五九
---	--	---	--	---

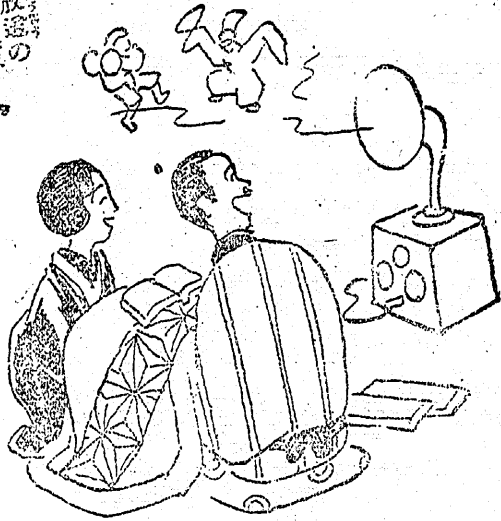


◎ひつじ種

稲を刈り取りたる後に再び自生する稲を「ひつじ種」と稱す。是れを「おろか生ひ」又は「いたづら稲」とも云ふ(古今集)に「かれる田におふるひつじの穂」に出るは、世を今更にあきまはてぬと云ふ。と詠まれて居るのは此のひつじ種のことである。

◎羊皮紙

未皮紙といふのは羊又は山羊の皮を石灰水又は明礬水に浸して板に張り半透明になるまで薄く削つたものである。太古に未の性行を評して左の如く書は紙が無かつたのでペルガムンといふ。人は此の未皮紙を筆書の用に供し、未は角あつて用ゐる羊に類したのである。現代でも歐羅巴の或る地方では卒業證書など鄭重を要するものには之を使用する。云々



羊皮紙の製造(柳葉)

◎ひつじ草

「ひつじ草」とは夏の水草として近來流行する睡蓮の別名である。昔時は「睡蓮」とは余り稱へず、未毛は和らかくして(五面へ續)

◎未毛筆

毛筆の資料として毛種は兎、鹿、馬など種々あるが就中未毛は和らかくして(五面へ續)

謹賀新年

吉田油槽所 關彰商店 主任 増淵 支店 電話四(倉)四八番 支店 電話六一番・五九四番	平町 振地小路 阿部政右工門	縣會議員 野崎滿藏	縣會議員 若松美三 平町三丁目(電話一九番)	大谷時計病院	平窪村 松本徳一	平町城山 磐城青年學校	民政黨石城支部會 幹事長 萩原義雄	安島重三郎	片倉磐城製糸株式會社	平三丁目 電話三五九番 丸はん家具店 平町新田前 電話一八二番 丸はん家具製作所	銘酒 由良之助 永山酒造店小賣部 平田町(電話二〇七番)	平電力株式會社 平町田町(電話二九七番)	ブリヤード 一の井 平町田町
--	--------------------------	-----------	---------------------------	--------	-----------------	--------------------	-----------------------------	--------------	-------------------	---	------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------

平 松田卯二朗	銘酒白菊正宗 和洋酒 廣瀨支店 問屋 平田町電話五四番	平二丁目 中野洋品店 電話五三番	平二丁目 鶴屋旅館 電話一三三番	平振地小路 瀨尾藥局 電話五五三番	平田町 石崎理髮店 石崎幸一	桐原英純	平銃砲火藥店	平田町 中島寫真館	平二丁目 和久井屋漆器店 電話四〇五番	平三丁目 大黒屋洋品店 電話一六六番	平一丁目 濟淋水野藥局	喪中欠禮 勇屋履物店
---------	-----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	-------------	---------------	---------------------	----------------------------------	---------------------------------	-----------------------	---------------

謹賀新年

(同不序順) 志有院醫病

星眼科醫院 平南町(電話四七一番)	神谷齒科醫院 平古銀治町	織田齒科醫院 平南町(電話四一六番)	佐藤齒科醫院 平四丁目(電話五〇八番)	志賀齒科醫院 平町五丁目	川井内科診療所 平南町(電話一八一番)	志成醫院 平鎌田町(電話三五八番)	木村外科醫院 平六丁目(電話三〇六番)	平 醫 院 平六丁目(電話三九番)	木村病院 平新川町(電話六四番)	安齋外科醫院 平田町(電話四七五番)	萩原齒科醫院 平南町(電話二五九番)	吉田眼科病院 平紺屋町(電話六八番)	原齒科醫院 平土橋通り(電話三一番)	上田外科醫院 平南町(電話二二九番)
----------------------	-----------------	-----------------------	------------------------	-----------------	------------------------	----------------------	------------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

平町二丁目

平町二丁目

賀正

三井自動車部 電話六〇五番

梨城日幸月長

謹賀新年

辯護士 山野邊義政

自轉車 織田 サイクル商店

理髮店 宮川 幸吉

組頭 井上 茂作

組頭 石坂 詮太郎

第一部長 關内 正一

第二部長 柏原 幸次郎

第三部長 鈴木 長三郎

第四部長 岡田 政次郎

高野 得助

鈴木 彌太郎

酒井 清

三井 富吉

高根澤長太郎

加藤丈夫 營新所

昭 和 園

平 乘 馬 會

平 庶 民 金 庫

百 澤 商 店

山 野 邊 米 店

中 野 吳 服 店

御 料 理 玉 よ し

小 松 崎 本 店

山 野 邊 大 五 郎

三 三 三 屋 肉 店

藤 市 蒲 鉾 店

吉 田 紋 店

岡 山 寫 真 館

炭 屋 旅 館

佐 川 洋 服 店

御 料 理 松 本 樓

高 倉 天 地 堂

子 菓 御 マ ツ モ ト ヤ

小 野 屋 藥 店

坂 本 紙 店

藤 寅

越 乃 家

芳 香 園 油 店

聚 樂 館

市 原 醫 院

實 川 婦 產 科 醫 院

鈴 木 齒 科 醫 院

丹 野 齒 科 醫 院

明 雲 堂 眼 科 醫 院

久 保 田 醫 院

森 合 齒 科 醫 院

片 岡 醫 院

前 田 醫 院

齋 藤 齒 科 醫 院

小 林 醫 院

石 城 看 護 婦 學 校

石 城 看 護 婦 學 校

平 產 婆 看 護 婦 學 校

平 看 護 婦 會

強く運筆の自在を授け頗る好評がある、有名なる書家、巻菱湖の如きは常に純粹の羊毫を以つて製した「純羊毫」なる筆を使用したのである。

羊酒とは良肉と芳醸とを云ふので、人を饗應して好佳するの羊酒を以てするのである。「史記」庶館傳に「羊酒を以て兩家を賀す」などあり、又「晋書」

羊酒とは良肉と芳醸とを云ふので、人を饗應して好佳するの羊酒を以てするのである。「史記」庶館傳に「羊酒を以て兩家を賀す」などあり、又「晋書」

羊酒とは良肉と芳醸とを云ふので、人を饗應して好佳するの羊酒を以てするのである。「史記」庶館傳に「羊酒を以て兩家を賀す」などあり、又「晋書」

謹賀新年

原町紡織株式會社
電話七四番

福島電燈株式會社
電話三七番

原町合同運送合資會社
電話六番

福島電燈株式會社
小高營業所

株式常磐銀行小高出張所

株式石川組製糸場原町支店

請戸川水電株式會社
小高支店

原町藝妓屋組合

原町 志賀隆明
鐵砲、火藥、空氣銃
原町本町二丁目

佐藤弘毅
小高町役場
原町本町三丁目

佐伯忠雄
町長三島庄藏
助役紺野數衛

原町郵便局
局長 岩崎清

原町土木監督所
所長 渡部嘉吉

會社 原町銀行
常磐銀行原町支店

福浦村役場
村長 安部一衛
助役 山澤久助

太田村役場
村長 岡田庄治郎
助役 大浦寬治郎

金房村役場
村長 草野利八
助役 飯崎義雄

大壺村役場
村長 今野義意
助役 伏見清春

高平村役場
村長 伏見忠藏
助役 門馬常治郎

鹿島町役場
町長 星寅五郎
助役 中野忠助

八幡村役場
村長 今野善治
助役 渡邊治助

石神村役場
村長 大和田長治郎
助役 池田清孝

眞野村役場
村長 牛渡惣
助役 羽根田權

土本請負 庄可卷造
町會議員 原町本町電一四〇

八澤村千拓組合
村會議員 山田茂治

八幡尋常高等小學校
校長 星清森

磯部尋常高等小學校
校長 門馬訂

鹿島町郵便局
局長 只野元藏

鹿島尋常高等小學校
校長 大橋彌太郎
八澤尋常高等小學校
校長 豊田秀雄

眞野尋常高等小學校
校長 太田宗慈
上眞野尋常高等小學校
校長 戸浪忠人

鹿島町消防組頭
佐藤憲助

八澤村消防組頭
松本進

上眞野村消防組頭
伏見直重

福島電燈株式會社
中村營所長 矢橋良雄

高玉潔治
小高町大井

鈴木重郎治
小高町

菊地伊三郎
鹿島町

田原口瑛藏
鹿島町

田原口三男
相馬郡八澤村

上眞野村小池
安養寺
住職 遠藤覺榮

縣社太田神社々司
手長 藤左内

縣社太田神社々司
武内清賢

縣社海老澤稻荷神社
社司 佐藤政博

日慈神社
社司 西山靖友

縣社小高神社
社司 相馬胤良

縣社中村神社
社司 田代千信

鄉社八幡神社
社司 遠藤緝

鄉社益多嶺神社
社司 田代咬

太神宮
社司 森伊織

遠藤さよ
小高町

星新
原町幸町

眞野村信用組合長
池田長八

在郷軍人分會長
鈴木清助

村會議員 星源太郎
村會議員 西哲治

太田村高野便局
局長 西哲治

縣會議員
太田秋之助

原町營林署長
遠藤英之助

御料理 大蒲燒
岩城屋旅館

小高町
電話三三三三

相馬郡石神村
土木建築請負業
太田亥之吉
電話(原町)四九番

警署無盡商會原町事務所
成瀬欽一郎
原町驛前

原町警察署管内消防組頭
石神村 堀川一正
高平村 大澤安藏

大壺村 阿部將衛
高平村 鈴木克衛
小高町 伊賀助太郎

福浦村 山澤久助
眞野村 但野修清

花月館
前田伊八
原町驛前(電話一四)

常磐線原町
材木問屋 星林治
電話二二五番

小高町幼稚園
志賀良顯

院長 相良純次郎
相馬郡鹿島町
相良醫院

原町本町
原町町座

興行部主任 大森定次郎
高島式馬耕機、改良農具一切
製造販賣所 板倉鐵工場
場主 板倉主税

日本無線電信株式會社
原町送信所
所長 小山糸之助

原町耕地整理係
阿部利助

男澤芳三郎
鹿島町

醬油醸造業
電話三三三三

原町東一番町(電話二三番)
渡邊外科醫院
院主 渡邊新

原町仲町(電話四三番)
レントゲン科 猪又醫院
院主 猪又義信

眼科、内科、外科
奇方 破雲丹
官許調劑所 壽生堂
院主 柄久保 蔀

小兒カンの妙藥
消食散一名
本舖 木幡製藥舖
相馬郡金房村飯崎

處方調劑林藥局(小高町)
林藥品商會
電話五三番

原町(電話一一番)
高井製糸場
主任 佐藤松太郎
◎工女募集

土木請負 時田子之助
小高町

請負業 土田留八
太田村平川

銘酒松乃友
松本酒造店
原町本町(電話十一番)

原町
衆樂園 丸川興行事務所
電話百十六番

あたくまるくすり湯
補温藥湯 道乃湯
原町太之助町

皆様の娛樂場
帝キネ直營
賀 原町旭座

經營主 松山翠城
支配人 松井玉翠
帝キネ特派員 柳本貞三

原町支局

原

定期 鹿島、中村間
(車川、上野、八幡經由)
電話三三三三

牛乳搾取業
電話三三三三

相馬郡福浦村海老澤
電話三三三三

小高町
電話三三三三

醬油醸造業
電話三三三三

